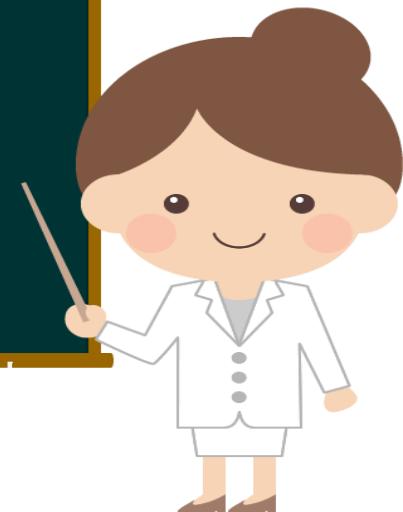


今回は、 「おとの 発達障害 1」



みなさま、こんにちは！

職場訪問させて頂いたり、電話や LINE 相談させて頂いている中で、

自分は「発達障害」なのではないか？と
いうご相談や、

「あの人は発達障害なのでは？」

という相談を受けることが少なからずあります。

この「発達障害」という言葉が、一般社会でも言いやすい表現であったり、違和感が少なくなっていることなどから、耳にすることも多くなりました。

しかし、用いられやすい半面、改めて発達障害とは？と問われると、返答に困ることがあると思います。そこで本日は、この「発達障害」について触れてみたいと思います。

2019 年に厚生労働省から研修資料として出された「発達障害の理解」

[https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000633453.pdf](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku-jaigo-00000000/000633453.pdf)

に、



発達障害の定義が記載されていますので抜粋させて頂きます。

発達障害とは、広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等)、学習障害、注意欠陥・多動性障害等、通常低年齢で発現する脳機能の障害(発達障害者支援法第2条)

※ICD-10(疾病及び関連保健問題の国際統計分類)における F80-98 に含まれる障害(平成17年4月1日付文部科学事務次官、厚生労働事務次官連名通知)とあります。

文字だと理解しにくいので、イラストで見てみましょう。

自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・興味のあることに関心が集中する
- ・こだわりが強い
- ・対人関係や社会的コミュニケーションに困難がある

注意欠如多動症 (ADHD)

- ・集中できない
- ・うっかり同じミスをする
- ・忘れ物やなくしものが多い
- ・じっとしていることが苦手
- ・掃除や片付けが苦手

限局性学習症 (SLD)

- ・全般的な知的発達には遅れない
- ・読み・書き・計算が苦手

これらを総称して、「**広汎性発達障害**」とも呼び

生まれつき持っている脳の性質や働き方、その後の発達の仕方に偏りがあることで起こる言語や行動、情緒などの特性であると言われています。

< 主な特性 >

① 社会性困難

人との社会的な相互関係を築くことが苦手

② コミュニケーション困難

他者とのことば等のやり取り(理解と表出)の難しさ

③ 興味・関心の狭さ、偏り(イマジネーションの難しさ)

興味の幅が狭さ、こだわりの強さ

他にも

- ・感覚の偏り(敏感・鈍麻・平衡感覚不全)
- ・不器用さ(発達性協調運動障害)
- ・睡眠の異常、過集中、記憶力、等があげられます。

こうした分類や特性があり、これが1つないしは複数で存在することもあります。

また、生活環境や生育歴にも関係しますので、自分が「発達障害かな?」と思ったら自己判断せず、医療機関の受診されることをお勧めします。

職場の同僚や、身近な方にこれらの特性を持つ方がいたら……

次回はその辺をお伝えさせて頂きます。

次回は何でしょう？

お楽しみに！

